



Title	都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第10巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1953
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/77386">http://hdl.handle.net/2115/77386</a>
Type	manuscript
Note	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。都市の生活構造、生活構造の概念。
File Information	N019_01S28.pdf



[Instructions for use](#)



NEW STANDARD  
NOTEBOOK

都市社会学

二十八年版

持殊満義筆

第十卷

都市の生活構造

生活構造の概説

生活構造の概念

一 近來の流行語としての生活構造

その不正確、不一致、不正確。

一 余の提唱する生活構造の意味

その概念的整理の必要を主張。

一 生活構造と社会構造の混同

才九章 都市の生活構造

序説 生活構造の概念

近頃生活構造と云ふ語が頻りに用ゐら

れる。けれども其の意味が、こゝでは

明瞭な根拠が、ないのでなく、一

つとに、解と云ふ語の、なと云ふ

概念を、なとする。ゆゑを認めし

て、なの根拠として、なの意味。

特に生活構造と社会構造を混

用する場合が多い。な。

社会構造の外に生活構造

の概念を設ける。そのゆゑを認め

るのは、社会構造のみによつては、な

# 社会構造は静態的構造に  
 同すより、<sup>生活</sup> 社会構造は  
 動態的現象に同すよりである。

社会生活の解明は、社会生活の解明による。

本来社会構造は村落及び都市  
 即ち社会生活の現象に適用される。

此の点において、その他の社会的統一性  
 に適用される。

社会生活の現象に適用される。

社会生活の分析には、社会生活の分析による。

① 我々の生活に必要とする生活構造の検査に先づ社会構造との区別を明かにする必要がある。

有用性を示す。

② 余は社会構造とは次の様に理解して居る。諸種の

「社会構造」を以て社会集団や

（定形化した片断）個人や社会

的統一が一つの複合的統一作

を形成して居る場合、かくの如き

要素の組合せを社会構造と云ふので

分析する場合はその一組の社会

的要素の組合せを社会構造と云ふので

ある。

諸種の社会集団や定形化した片断

この国体や、社会的統一が復元し  
て一億の社会的統一を形成す

このは、<sup>徳新の</sup>高橋武生に於いて、<sup>高橋</sup>  
の「<sup>徳新の</sup>高橋武生」の如き、<sup>徳新の</sup>徳新

この社会的統一は右の如き、<sup>徳新の</sup>徳新  
的部分に分析して分析するに及

このは、<sup>徳新の</sup>徳新の全体の社会  
的統一を<sup>徳新の</sup>徳新する。これは

また、<sup>徳新の</sup>徳新の統一を  
設定し、<sup>徳新の</sup>徳新の統一を

又、<sup>徳新の</sup>徳新の分析、<sup>徳新の</sup>徳新の  
設定の由、<sup>徳新の</sup>徳新の統一

一般に、<sup>徳新の</sup>徳新の統一、<sup>徳新の</sup>徳新の統一

名づけておれし片よしも、単一の様  
 能の北方は、はなく、多くの集團  
 や國の他、あ、社会的統一  
 全体、統一を構成し、片よしも  
 にかくの如く、総合的統一  
 是、理的層の、片よしも  
 令、作を構成し、片よしも  
 孝に、解作し、規層  
 可し、片よしも  
 を、構  
 其の、経済化の  
 同、社会

多量の宝能一を分析し、見れば

名づけておれし片よしも、単一の様  
 能の北方は、はなく、多くの集團  
 や國の他、あ、社会的統一  
 全体、統一を構成し、片よしも  
 にかくの如く、総合的統一  
 是、理的層の、片よしも  
 令、作を構成し、片よしも  
 孝に、解作し、規層  
 可し、片よしも  
 を、構  
 其の、経済化の  
 同、社会

口と足す、此<sup>等</sup>の社会的要素の  
組合せの全体、<sup>具体的</sup>社会的統  
一と足す、<sup>社会的</sup>は昭々<sup>と</sup>に社会的  
を構成して居る。  
分析には甚々有用である。この概念は  
其の複合に最も適用されること  
を以て理由は、他の複合的統合は  
其の複合の飛度、其の要素の結合に比  
すれば比較にたゞめ程單純である。  
から、<sup>その</sup>中<sup>に</sup>あ<sup>る</sup>し<sup>て</sup>、<sup>その</sup>結合<sup>の</sup>構造<sup>は</sup>、<sup>その</sup>統合  
による、<sup>その</sup>分析<sup>は</sup>、<sup>その</sup>要素  
が、甚だしく複雑である。要素

現象

\*都市の住民の生活を一つの全体として  
区別的に観察した場合、その間に認め  
らるる時季的周期性及地域的な  
秩序とがこゝで意味される。  
こゝでは生活現象はゆるゆるに  
社会

母体

の集積として非現象と

この二はなす、是れは周期  
性や秩序の神は社会的な  
現象が可能である。ゆゑに  
生活構造の秩序は一つの主要な  
都市の社会現象のあり方  
である。

社会の秩序にはこれなくしては  
分析を述べた。女史もなつた

社会構造の概念、今日の尚ほ 七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

如く整理せず、甚だ皮厚な  
足跡を存し、そのは遺感である。

次に生活構造を私は、彼の 社会の秩序

に現象して、彼の 社会の秩序

生活構造とは、彼の 社会の秩序

生活現象の中心に、彼の 社会の秩序

秩序の中心に、彼の 社会の秩序

秩序の中心に、彼の 社会の秩序

秩序の中心に、彼の 社会の秩序

秩序の中心に、彼の 社会の秩序

東京銀座の夜の人口は二千である。



# 一定の地域内の人が一定の目的のために  
 各地域に一定の時期に開始作  
 るに比し地上に存在するものとの関係  
 あり

か、書上の人口は二十万であるといふ。  
 これは東京の生活構造の概略を  
 生活の型をとって片づけてある。#  
 一夜にして銀座が無くなるとして  
 ならば、倒へば大火によって消え失せた  
 としたならば、東京の生活構造は  
 急変しなければならぬ。けれども  
 東京の社会構造は是の爲に寸  
 毫も変ることはないであろう。  
 世帯と職域を東京の二つの集  
 団が都市の社会構造の基礎盤  
 であるといふ者人の考へは、空想に

# 高松市の

住宅構造は住宅の要素の組成

を明らかにするものである。住宅構造

とは高松市の生命存続の

ために必要の周期反復の

形質を助成するものである。

固定した周期的律動が安定した

生活の秩序や安定した生活秩序

系に必要の都市の生活秩序

の強固な固定した生活秩序

の必要である。周期的に生活秩序

の安定化はかゝる必要である。生活秩序

漸次的高層化を意味する。生活秩序

下の要素系について見ると、

住宅構造は実質的に

いしである。住宅構造は

不審の要素は在り。住宅構造

我々の都市の秩序の

つきの原住を構造を助成する

は、おと、ぬ。けれと、その生活

造を助成する。都市

市の生活秩序に換する。都市

出来た。都市

生活の地域的構造に因しては、

住宅構造は、都市

一方は、都市

と居るか、生活の経済的措置に同じくは  
是れを同じとして研究は強き有しな。  
故に佛~~の~~生活の経済的秩序（と云ふ）  
が何を意味するかについて、求むべくは其  
かある。

余は嘗て日本の研究を試みたるは佛  
の経済秩序を如何に東洋の<sup>に</sup>移す  
べきか、生活に支配して<sup>る</sup>べきか、  
かあるか、其時余は<sup>此</sup>を<sup>知</sup>る  
余就をもたなかつた。今朝市の生活を  
考察して之をやけり<sup>と</sup>思ふ<sup>に</sup>適す  
の<sup>を</sup>其<sup>の</sup>為<sup>に</sup>佛<sup>の</sup>経済<sup>の</sup>秩序<sup>に</sup>同じ



